

事業番号	226
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	公共交通利用促進事業						担当部	環境交通部							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	交通防犯課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交通空港係							
	総合計画 分野別計画	主目的	2 環境交通		8 公共交通		4 公共交通の利用を啓発する									
		副目的	8-2		8-3											
	予算区分	款	2		項	8		目	2		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画															
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	76 %			委託	0 %			助成	24 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	名鉄小牧線全線複線化と市内公共交通の利便性向上に資するため、市民の公共交通の利用者増加を目指す。														
	内容 (手段)	<p>市民が中心となって活動している公共交通利用促進協議会において次の事業を実施している。</p> <p>①公共交通の利用者の増加を図るための啓発活動の実施 ②利用増進のための情報収集及び調査研究 ③関係機関に対する要請 ④その他目的達成に必要な事業の実施</p> <p>【直接経費の内訳】 平成23年度公共交通利用促進協議会補助金(597千円)</p>														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	702	776	597	700	
		正職員	従事者数	人	0.35	0.35	0.35	0.35
			人件費	千円	1,861	1,861	1,861	1,861
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,563	2,637	2,458	2,561	
	対前年比	%		102.8	93.2	104.1		
財源	一般財源	千円	2,563	2,637	2,458	2,561		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	啓発活動(事業)数	件	目標		4	4	4
実績				4	4	4	
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	名鉄小牧線年間利用者数	千人	目標	9,100	9,200	9,200	9,500
実績			9,060	9,194	9,420		
こまき巡回バス年間利用者数	人	目標	306,000	312,000	318,000	358,000	
		実績	304,251	292,217	322,379		

事業の自己評価	事業の達成状況	公共交通利用促進協議会の役員をはじめ、多くの会員の参加を得て活発な啓発活動を実施することが出来た。 また、名古屋鉄道㈱をはじめ、愛知県など4箇所の関係機関へ、役員による強力な要望活動を実施した。 名鉄小牧線の利用者数も継続した地道な活動の結果、目標を上回る利用者数となった。また、巡回バス利用者数も10月から実施した「65歳無料化」の影響により対前年度比110%となった。
	事業実施における課題等	市民まつりやいきいきこまきでの啓発活動と関係機関への要望活動が主な活動となるが、活動がマンネリ化しつつある。
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民が中心となって行っている公共交通を支える活動の継続が困難になる。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	平成22年度から市内の主な企業に役員として参加していただき、通勤に係る現状と課題について検討することが出来た。今後、市民のみならず、企業や学校など、多様な主体を対象とした啓発活動が必要である。 要望活動の内容については、事業者の経済状況等にも左右されるため、今すぐ実現する可能性は低いものの、継続的な要望活動は、今後も必要である。
	改善案等	上飯田連絡線開通等、小牧線整備が一段落した現在、小牧線、ピーチバス、巡回バスなど公共交通の維持のために利用者の増加が不可欠である。平成23年度においては、市民まつりやいきいき小牧で会員による啓発活動を行ったが、市民や企業、学校など幅広い市民参加により活動を進めていく必要がある。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。